

基本目標Ⅰ 高齢者の健康づくりの推進

(1) 高齢者自身の主体的な健康づくりの推進

①保健計画と連携した健康づくりの推進

■ 保健計画と連携した健康づくりの推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
「にしGOココカラ元気プロジェクト」参加者数	326人	300人	402人	350人
1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上続けている者の割合 ※	42.5%	37.0%	44.4%	38.0%

※KDBシステムより

【実施内容・実績】

にしGOココカラ元気プロジェクトは、ウォーキング、ランニング、血圧測定などのコースから選択し、目標を設定し、日々の健康づくりに取り組むことを目的とした事業である。目標の達成度合いに応じ、商品券等と交換を行うインセンティブ事業として、令和5年度より実施している。

(令和6年度) 参加者 326名

(令和7年度) 参加者 402名

【自己評価(現状、課題と対応策)】

村民が日々の健康づくりに継続して取り組めるよう、インセンティブを活用した事業「にしGOココカラ元気プロジェクト」を実施した。健康増進チャレンジでは、「動く」、「測る」、「記録する」の3つのコースから選択し、個人で目標を設定。50日目目標達成ごとにスタンプを付与した。また、健幸アップチャレンジでは、健康増進事業や介護予防事業など、さまざまな健康づくり活動への参加に応じてスタンプを付与した。獲得したスタンプ数に応じて、商品券等と交換できる仕組みとし、健康づくりへの参加意欲の向上と継続的な取組の推進を図った。今後も、より多くの村民が健康づくりに取り組むことができるよう、内容を見直し、健康づくりの普及に努めていく。

②健康診査の推進

■ 健康診査の推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
特定健診受診率	49.5%	49.0%	49.4%	50.0%
高血圧有所見者 (収縮期血圧/拡張期血圧) ※	43.0%/22.5%	45.5%/14.0%	40.2%/22.1%	45.0%/13.5%

※KDBシステムより

【実施内容・実績】

特定健診未受診者に対して受診勧奨を行い受診率向上に努めた。また、健診では検査項目に、尿中塩分測定を追加し、食事から推定される塩分量が見える化し、減塩に対する意識向上を図った。随時塩分測定器の貸し出しを行い、日ごろから減塩に取り組めるよう住民への周知を行った。また高血圧有所見者への保健指導と病院の受診勧奨を行い有所見者の減少に努めた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

特定健診(集団)においての尿中塩分実施者1,751名。平均9.7gであり、基準値よりも高い傾向にある。結果説明会等において、生活習慣病予防と減塩方法の教室を実施し健康への意識向上に努めた。また説明会前後の比較ができるよう尿中塩分検査を実施し、減塩への意識向上に努めた。今後も高血圧予防・改善のため健康教育を行い、生活習慣改善への意識を向上できるように努めていく。

③高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進

■ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
健康教室（栄養・口腔・運動）の実施地区数	19地区	18地区	16地区	20地区
フレイル予防教室参加者数	229人	220人	316人	230人

【実施内容・実績】

健康・医療・福祉について一体的に実施する体制を構築し、老年期においても保健事業を実施することで、生活習慣病の重症化を防ぎ、要介護状態に陥ることを予防する。またフレイル予防のため、通いの場において地域リハビリテーション専門職を派遣し健康教育を実施している。

（令和7年度）派遣地区数:16地区/16地区中 参加者数:316人

実施回数:理学療法士7回、言語聴覚士2回、作業療法士2回、栄養3回、体力測定16回

【自己評価（現状、課題と対応策）】

地区の要望を受け、地域リハビリテーションの専門職派遣を行い、高齢者特有の身体的機能低下に特化したより専門的な知識の普及と実践的指導を行うことができた。今後の課題としては引き続き地区に専門職を派遣し、多くの村民に広く介護予防や認知症予防について普及する機会を設ける。

（２）高齢者活動団体の交流や社会参加への支援

①老人クラブ活動への支援

■ 老人クラブ活動への支援

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
会員数	165人	185人	166人	190人
年間活動回数	91回	105回	91回	110回

【実施内容・実績】

西郷村老人クラブへの助成を通して仲間づくりや健康づくり、社会奉仕やその他の地域活動等、自らの生きがいを高める様々な活動を支援している。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

会員数については、増加傾向にあり、活動への体験等のきっかけから加入がみられた。今後も関係機関で連携を取りながら、人数・回数の拡大に取り組んでいく。

また、補助金の手続きが複雑化しているため、負担軽減のため見直しが必要である。

②シルバー人材センターの活動支援

■ シルバー人材センターの活動支援

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
会員数	178人	175人	175人	180人

【実施内容・実績】

生きがいや健康増進の場、経済的な面からも高齢社会にとって重要な組織であるため、引き続き一般の雇用に馴染まない高齢者を対象に、その知識や能力、体力等に応じ臨時的かつ短期的な仕事を提供する業務を行う経費について支援している。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

シルバー人材センターの支援を通して、就労等による高齢者の社会参加に繋がっている。しかし定年延長等の雇用環境の変化や新規入会者の減少により人員が不足していることと、会員の高齢化が課題となっている。会員募集の広報にも力を入れる必要がある。

③敬老事業

ア 敬老会

■ 敬老会

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
出席者数	104人	60人	118人	65人
出席率	26.0%	21.0%	28.0%	22.0%

【実施内容・実績】

令和7年度は前年度に引き続き77歳、80歳、88歳、幸せ金婚夫婦を対象に敬老会を開催した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

今後も、高齢者に敬意を払い、長年の功績と長寿をお祝いするとともに、本事業の実施体制については、身近なコミュニティーでの実施等を検討する必要がある。

イ 敬老祝金

■ 敬老祝金

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
対象者数	2,489人	2,500人	2,634人	2,560人

【実施内容・実績】

毎年9月15日において西郷村に1年以上住所を有する年齢75歳以上の対象者に5,000円を支給。ただし令和6年度より、80歳、88歳、90歳、99歳以上の者については10,000円の支給を行った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

今後も、高齢者に敬意を払い、長年の功績と長寿をお祝いするとともに、高齢者にとっても生きがいの一つとなるよう本事業の継続を検討しながら実施していく必要がある。

ウ 百歳高齢者賀寿

■ 百歳高齢者賀寿

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
対象者数	10人	7人	1人	6人

【実施内容・実績】

令和7年度は、対象者1名に対して、祝状及び祝金100,000円を贈呈した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

式典の方式などについて本人や親族の希望を確認し、実施する事が出来た。

④ボランティア活動

【実施内容・実績】

ボランティア活動として、地域づくり勉強会を開催しており、シルバー人材センターでは、就労等によって高齢者の社会参加に繋げている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

ボランティア活動では、「地域の見守り体制」・「地域の通いの場づくり」・「村内の地域資源の情報発信」等が地域の課題として挙げられた。

（３）生涯学習活動・生涯スポーツ活動の推進

①生涯学習活動の推進

■ 生涯学習活動の推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
人生楽園クラブ延べ参加人数	480人	710人	542人	740人
人生楽園クラブ参加実人数	66人	110人	105人	115人
きらり学び講座延べ参加人数	314人	310人	338人	330人
きらり学び講座参加実人数	63人	75人	66人	80人

【実施内容・実績】

生涯学習推進の一環として、趣味の講座及び特別講座で教養を身につけ、交流、健康増進を図るため、高齢者学級である「人生楽園クラブ」及び「きらり学び講座」を開催している。

人生楽園クラブでは、趣味の講座（茶道、編み物、健康麻雀、カラオケ等）計7回、講話1回、研修旅行を1回実施した。

きらり学び講座では、論語・俳句・歴史を題材に、計11回開催した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

人生楽園クラブにおいて、空調設備を完備した会場を確保し健康体操を再開したことで参加人数が大幅に増加した。また、きらり学び講座においても内容の充実等により参加人数が増加しており、住民の学習機会の提供と交流活性化に大きく寄与した。

今後は、より多くの方に参加していただくため、満足度のさらなる向上を図るとともに、参加のハードルを下げる環境づくりが課題である。受講者のニーズを捉えた魅力ある講座の企画・運営に一層努め、延べ参加人数および実人数の双方を底上げすることで、生涯学習を通じた地域住民の交流活性化を推進する。

②スポーツ・レクリエーション

■ スポーツ・レクリエーション

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
健康パドル体操参加延べ人数	342人	400人	338人	450人
健康麻雀延べ参加人数	2,961人	2,800人	3,751人	2,900人

【実施内容・実績】

健康パドル体操及び健康麻雀は、過去に公民館講座へ参加した方々がサークルを組織し、自主運営で活動を行っている。

健康パドル体操は、月平均3回のペースで実施し、参加延べ人数は令和5年度より30名程度増加したところである。健康麻雀は、月平均14回の活動があり、延べ参加人数は160名程度増加した。また、近隣地域との健康麻雀交流会を継続して開催し、活動及び交流の広がりを見せている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

健康麻雀においては交流会の開催等もあり、前年度を大幅に上回る成果となった。健康パドル体操についても、参加人数は微減したものの月平均3回の活動を継続し、住民の健康増進と交流の拠点として機能している。

一方で、参加者の固定化や、今後を見据えた新規加入者の獲得が引き続き重要な課題となっている。今後は、既存団体の活動が円滑かつ持続的に発展できるよう支援を継続するとともに、より多くの住民が参加しやすい環境づくりや活動の魅力発信に努め、サークル活動のさらなる活性化と交流の広がりに取り組んでいく。

基本目標Ⅱ 地域包括ケア体制の深化・推進

（１）地域包括ケア体制の推進

①地域ケア会議の推進

■ 地域ケア会議の推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
地域ケア会議 （個別地域ケア会議含む）の開催	27回	15回	26回	15回
自立支援型地域ケア会議の開催	4回	4回	4回	4回
地域ケア会議（圏域別）	1回	2回	0回	2回

【実施内容・実績】

自立支援型地域ケア会議は要介護者の自立を目指すことを目的に、支援内容の検討や見直しを図るとともにケアマネジャー等の資質向上を図るもの。

圏域別地域ケア会議では、地域課題の発見や各種機関との連携の強化を目指すことで、より良い活動を行うにあたっての情報収集を目指す。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

自立支援型地域ケア会議については、事前に資料を専門職の方々へ送付し会議での概要説明を省略し、専門職からの助言に十分な時間を充てて開催した。多職種の専門的な視点に基づく助言を通じて、要介護者等の更なる自立につなげることができた。さらに翌年度モニタリングを行うことで、支援内容の検討を行った後の新たな課題についても協議し、ケアマネジャーの資質向上につながった。

圏域別地域ケア会議については、令和7年度は、検討を要する議題が生じなかったことから会議の開催を見送った。今年度の開催に向けて、議題及び開催方法について各所と検討していく。

②地域包括支援センターの機能強化

■ 地域包括支援センターの機能強化

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
ケアマネ会議の開催	4回	4回	7回	4回
研修会への参加	80回	90回	88回	95回

【実施内容・実績】

地域包括支援センターへの総合相談件数も年々増加してきており、ますます重要性が高まっている。介護支援専門員への支援や指導を実施しながら研修会などへ積極的に参加し個々のスキルアップを図った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

地域包括支援センターの運営に必要な専門職（保健師等、社会福祉士等、主任介護支援専門員等）を適切に配置し、増加する総合相談に対して確実な対応ができています。また、年間を通じて非常に多くの研修会へ積極的に参加しており、職員個々の専門知識の習得・スキルアップが着実に図られている。さらに、ケアマネ会議の開催等を通じて、地域の介護支援専門員に対する支援・指導機能も果たしており、地域の要として機能していると評価できる。しかし、研修等による個人のスキルアップは図られているものの、担当するケースが複雑化・多様化する中で、支援体制をさらに強化していく必要がある。

③生活支援体制の整備推進

■ 生活支援体制の整備推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
生活支援コーディネーター の活動の場 訪問回数	60回	32回	43回	34回

【実施内容・実績】

生活支援コーディネーターを中心に、村内の通いの場(地域のサロン等)を定期的に巡回し、地域住民との関係構築を図るとともに、生活上の困りごとや地域に必要な支援についての聞き取り調査を実施した。把握した地域ニーズ(ちょっとした困りごと等)に対応するため、新たな生活支援の仕組みとして「有償ボランティア事業」の立ち上げを企画し、関係機関と事業化に向けた協議を実施している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

関係機関と連携を図り、簡単な日常生活の支援を行う有償ボランティア事業の体制整備を早急に図る必要がある。

④在宅医療・介護連携の推進

■ 在宅医療・介護連携の推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
多職種連携会議の実施回数	1回	1回	1回	1回
村民への講演会・講座 実施回数	2回	5回	1回	5回
医療・介護従事者の 多職種連携会議	1回	1回	1回	1回

【実施内容・実績】

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために、必要な支援を行う。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

在宅医療・介護連携事業として白河地方在宅医療連携支援センターに委託している事業である。関係機関や住民への周知を継続し、制度の充実を図る必要がある。

⑤高齢者のより良い住環境づくりの推進

■ 高齢者のより良い住環境づくりの推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
高齢者向け住宅の連携会議	1回	1回	1回	1回

【実施内容・実績】

高齢者の住まいについて、県、住宅担当課、高齢者担当課による連携会議を実施し、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等の情報について連携を図った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者の多様な住まいのニーズに対応するためには、福祉部門と住宅部門の連携が不可欠である。今後も県を交えて住宅担当課・高齢者担当課による連携会議を開催し、村内および近隣の有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等に関する情報共有を図りたい。

(2) 介護予防・日常生活支援の充実

①介護予防把握事業（西郷村高齢者福祉トータルサポート事業）

■ 介護予防把握事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
訪問件数	5070件	5,200件	5237件	5,300件
調査件数	3321件	3,400件	3321件	3,500件
介護予防基本チェックリスト作成件数	1750件	3,200件	1907件	3,300件

【実施内容・実績】

村社会福祉協議会に委託し、事業を実施。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、高齢者の実態把握調査や介護予防のチェックリスト作成、また各種保健福祉サービスの広報・啓発、各種事業の代行申請、を行っている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

高齢者の状況把握として、調査員の訪問も、住民に浸透してきている。1年に1回の訪問を待っている高齢者も多い。今後、この事業を継続して、高齢者を見守りするとともに、地域の生活課題の抽出に努め生活支援体制の構築を図る必要がある。

②介護予防普及啓発事業

ア お元気運動教室

■ お元気運動教室 ※年間実施計画により参加者数や利用回数に変動有り

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
参加者数	31人	36人	28人	36人
参加者延べ利用回数	262回	360回	249回	360回

【実施内容・実績】

体力レベルが比較的高い高齢者を対象に健康運動指導士等の指導によるストレッチや有酸素運動、器具を用いた運動教室を実施している。

（令和6年度）開催数：40回実施 ※10回×4コース

（令和7年度）開催数：40回実施 ※10回×4コース

【自己評価（現状、課題と対応策）】

高齢者が介護予防について正しく理解し、主体的に介護予防や健康づくりに取り組むきっかけとなっている。毎年リピーターの参加率が高く、新規参加者の獲得が難しい状況であるため、より多くの方に介護予防に取り組んでもらうための事業展開が課題である。

イ いきいき教室

■ いきいき教室 ※年間実施計画により参加者数や利用回数に変動有り

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
参加者数	72人	70人	37人	70人
参加者延べ利用回数	938回	780回	371回	780回

【実施内容・実績】

ADL(日常生活動作)の低い高齢者を対象に、専門職による運動器と口腔機能の指導や訓練を行う軽運動教室を実施している。

(令和6年度) 開催数 : 60 回

※通年コース 1 セット×20 回×2 グループ 新規コース 1 セット×10 回×2 グループ

(令和7年度) 開催数:34 回 17回×2 グループ

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者福祉トータルサポート事業での介護予防基本チェックリストを活用し、参加者の拡大に努めた。今後も、ADL が低下すると思われる方も含めた、より多くの方に参加していただけるような事業展開を目指す。

ウ 介護予防体力測定会

■ シニア体力測定会

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
参加者数	80人	90人	86人	100人

【実施内容・実績】

より広い範囲の高齢者の介護予防・健康寿命の延伸を図るため、令和6年度より概ね65歳以上の村民を対象とした体力測定会を実施している。体力測定を通じて自身の身体状況を客観的に把握し、併せて専門職による個別指導を実施することで、早期に介護予防に取り組む契機づくりにつながることを目指す。

(令和6年度) 開催数:2回(5月、11月) ※実参加者数:80名

(令和7年度) 開催数:2回(5月、11月) ※実参加者数:86名

【自己評価(現状、課題と対応策)】

各種介護予防教室等に参加されていないより広い範囲の村民に介護予防についての正しい理解と普及啓発を図ることにつながった。今後も、自身の身体状況を把握し、早期に介護予防に取り組むきっかけづくりにつながることを目指し、事業実施していく。

エ 元気からだ塾

■ 講演会・講習会

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
実施回数	5回	5回	6回	5回

【実施内容・実績】

各種専門職による講演・講話を行い、生活機能全般を維持・向上させるための知識の普及啓発を行うことにより、住民の主体的な健康づくりを支援するため、令和6年度より実施している。

(令和6年度) 実施回数:5回 ※延べ参加者数:541名

(令和7年度) 実施回数:6回(通常開催5回+番外編1回) ※延べ参加者数371名

【自己評価(現状、課題と対応策)】

元気からだ塾全6回実施した。すべての回で、定員を上回る参加申し込みとなり、村民の自主的な健康づくり、介護予防への取り組みの一助となった。参加者の意見に耳を傾け、村民のニーズにあった講演・講話を実施できるよう努めていく必要がある。

③地域介護予防活動支援事業

■ 地域介護予防活動支援事業

	R6	R7		R8
	目標値	目標値	実績値	目標値
シニア活動支援事業派遣箇所	15地区	17地区	16地区	18地区
介護予防サポーター人数	60人	70人	75人	80人

【実施内容・実績】

シニア活動支援事業では、地域でのサロンや健康運動教室等の自主活動の通いの場に、健康運動指導士の派遣を実施している。令和6年度より健康運動指導士だけでなく、介護予防サポーター及び保健師を派遣している。

介護予防サポーター養成講座は、地域における高齢者の積極的な健康づくりや介護予防への取り組みを応援するボランティアの育成を目的に実施している。

(令和6年度) 新規養成講座 : 16人 開催数:3回

フォローアップ養成講座 : 8人 開催数:3回

(令和7年度) 養成講座 : 28人 開催数:4回

【自己評価(現状、課題と対応策)】

介護予防サポーター養成講座受講修了者のうち、新たに地域で活動して下さるボランティアが増えた。今後も介護予防サポーターも活用しながら、運動面のみでなく、多面的なアプローチをとって幅広い村民の方が携われる仕組みづくりを目指していく。

④介護予防・生活支援サービス事業

【実施内容・実績】

緩和したサービス事業実施につきましては、生活支援体制整備事業や、地域ケア会議等を活用し、地域のニーズにあったサービスが提供できるよう事業所等と協議を重ねてきたが、採算性、人員の確保の問題もあり実施には至っていない。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

移行前の訪問・通所介護に相当するサービスを引き続き行うほか、村民の方が多様なサービスを選択できるよう、訪問(通所)型サービスA(緩和した基準によるサービス)の実施を目指していく。他のB(住民主体による支援)、C(短期集中予防サービス)、D(移動支援)については、生活支援体制整備事業や地域ケア会議等を活用しながら地域の実情を把握した上で必要性を検討していく。

⑤住民主体の通いの場の普及・啓発

■ 住民主体の通いの場の普及・啓発

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
通いの場の実施数 (いきいきサロン)	11か所	13か所	11か所	14か所

【実施内容・実績】

いきいきサロンへ保健師の派遣を行い、健康講話や体力測定を実施することで活動を支援している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者が自立した生活を送るため、地域での通いの場への参加や、自主的な健康づくり、介護予防教室への参加を促すような取組が必要である。次年度より3か所で新たにいきいきサロンが設置となる。引き続き、自主活動内容の幅が広がるよう社会福祉協議会と連携しながら、新たな通いの場が増えるように努めていく。

⑥高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進(再掲)

（３）認知症施策の総合的な推進

①認知症に対する正しい知識の理解促進

■ 認知症サポーターの養成

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
認知症サポーター数 ※認知症サポーター養成講座受講者数（延べ人数）	1,839人	2,000人	2,098人	2,200人
認知症サポーターステップアップ講座の開催	1回	2回	1回	2回

【実施内容・実績】

認知症の方が安心して暮らせる村づくりを目指して、認知症サポーター養成講座を村民・学校向けに開催し、幅広い世代及び職種の方へ認知症について正しい知識の理解と普及啓発を推進するとともに、地域の見守りの強化を図っている。中学生向けの認知症サポーター養成講座と一般村民向けの認知症サポーター養成講座を実施している。認知症サポーター養成講座受講者にステップアップ講座を受講していただき、今後は村の認知症施策への協力にも繋げていきたい。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症に対する正しい知識の普及及び啓発、実際に地域での見守りの強化を図るために、今年度も認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座を開催し、認知症の方、介護する家族の支援者の養成を進めるとともに、チームオレンジを構築し、サポーターの活躍の場を作り出していく。

イ 認知症カフェの普及

■ 認知症カフェの実施

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
認知症カフェ（設置数）	3か所	3か所	1か所	3か所
認知症カフェ（開催回数）	5回	6回	6回	7回

【実施内容・実績】

認知症カフェは、認知症の本人及び家族が身近な場所で、医療・保健・福祉の専門職に相談しながら、地域住民と交流ができる場、気軽に情報交換できる場として設置している。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

カフェの認知度が広がってきており、参加者が増加傾向にある一方で、認知症当事者の参加は伸び悩んでおり、関係機関で連携を取り、拠り所であるカフェにつなげていく必要がある。

認知症の予防には、孤立の解消や社会参加が重要であることから、認知症カフェの役割は大きい。今後も、気軽に参加できる場として、ボランティアとも協力を取りながら認知症カフェの周知と開催に取り組んでいく。

ウ 認知症に関する普及・啓発活動

■ 認知症啓発活動

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
各種イベントにおける啓発活動	9回	10回	5回	10回
認知症相談窓口普及啓発活動	18回	20回	10回	25回

【実施内容・実績】

世界アルツハイマー月間等を通して認知症に関する広報活動を行っている。今後も、認知症に関する基礎的な情報や、相談窓口・医療機関に関する相談窓口の普及・啓発に努め、早期に相談につながるよう支援を行う必要がある。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症に関する正しい理解や窓口の周知については、継続して実施していく必要がある。令和7年度は認知症啓発映画「オレンジ・ランプ」上映会を開催し、297名の観覧があり、大きく啓発が進んだ。

②認知症の予防及び早期発見・早期対応の推進

ア 認知症相談事業

■ 認知症相談事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
認知症に関する相談件数	79件	120件	58件	130件

【実施内容・実績】

認知症カフェやその他相談先にて認知症に関する高齢者や家族の相談があった際に、認知症初期集中支援チームや認知症ケアパス等を活用しながら関係機関と連携し、適切な支援を行っている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症の相談窓口の周知を図るとともに、関係機関と連携し、適切な支援に結び付けられるよう相談体制を構築していく。

イ 高齢者補聴器購入費助成事業

■ 高齢者補聴器購入費助成事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
助成件数	19件	20件	27件	25件

【実施内容・実績】

難聴により日常生活を営むのに支障がある高齢者に対して、補聴器の購入費用の一部を助成する。令和7年度は27件であり、実績値は増加傾向にある。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

事業の周知だけでなく、難聴によるコミュニケーション問題から、身体的・精神的な衰弱につながる可能性があることや、耳鼻科受診や補聴器の使用が健康寿命につながることを啓発していくことが重要と考えられる。

③認知症高齢者等の支援の推進

ア 認知症初期集中支援事業

	R6	R7	R8
	実績値	実績値	目標値
認知症初期集中支援チーム 支援件数	0件	0件	—

【実施内容・実績】

認知症になっても出来るだけ長く住み慣れた地域で生活できるよう、認知症の方に早期に関わるため、「認知症初期集中支援チーム」を県南4町村（矢吹町・中島村・泉崎村・西郷村）合同で県立ふくしま医療センターこころの杜に設置している。令和6年度は支援件数の実績は無かったが、認知症初期集中支援チームにおける研修会を行い、情報共有及び対応力向上を図ることができた。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症又は認知症の疑いのある方や家族に必要な医療や介護の調整をいつでも行えるよう、引き続き認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携し、早期に認知症初期集中支援チームにつなげていく必要がある。

イ 認知症地域支援推進員の活動

■ 認知症地域支援推進員の活動

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
年間活動回数	76件	145件	102件	150件

【実施内容・実績】

認知症地域支援推進員は、各市町村が進めている認知症施策の推進役、そして地域における認知症の人の医療・介護等の支援ネットワーク構築の要役として、地域の特徴や課題に応じた活動を展開している。

推進員は、各市町村が目指す「認知症の本人の姿」・「地域の姿」に近づくことを目標に活動している。

推進員の活動は、「医療・介護等の支援ネットワークの構築」、「関係機関と連携した事業の企画・調整」、「支援・支援体制構築」が3本柱であり、具体的な活動は、村と推進員が協働で計画・実施していきます。推進員が活動のさらなる充実を図れるよう、推進員への支援を行っていく。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

認知症地域支援推進員が活動しやすい環境を整え、村と連携しながら、認知症の人の医療・介護等の支援ネットワーク構築を行っていく。

ウ チームオレンジの取組の推進

■ チームオレンジの取組の推進

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
チームオレンジへの取組	1回	4回	2回	5回

【実施内容・実績】

チームオレンジとは認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援を行う取組である。村では、認知症サポーターの方を、村の認知症施策事業で十分な活用に至っていないため、重点化すべき事業を明確にしながら、その活用につなげていき、チームオレンジの構築を目指していきます。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

チームオレンジが立ち上がり、今後支援体制の整備・拡大が必要となる。

エ おかえり・見守り事前登録事業

■ おかえり・見守り事前登録事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
西郷村高齢者等おかえり・見守り事前登録事業の普及啓発	6回	5回	5回	5回

【実施内容・実績】

認知症などにより、徘徊するおそれのある方高齢者等情報を事前に登録することにより、警察署に対して家族からの行方不明者届及び通報があった場合、早期発見・保護を目的とする事業。

令和7年度 登録者16名。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

広報誌により事業の啓発を行うほか、認知症サポーター養成講座や民生委員児童委員協議会などにおいても、事業について周知を図っている。今後も、様々な機会を利用し事業の周知活動を行い、認知症の方や、そのご家族の日常の不安軽減につなげ、地域における安心した生活の一助をしていきたい。

(4) 地域共生社会の実現に向けた取組の推進

①地域包括支援と多様な参加・共同の推進

【実施内容・実績】

地域包括支援センターを中心に高齢者の生活支援・介護予防・権利擁護等の事業を介護事業者等関係機関と連携し推進した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

現在は、地域包括支援センターが中心になり事業を推進しているが、住民主体の取組みや関係機関が連携して対応する重層的・包括的な支援体制を整備していくことが課題である。

②共生型サービスの推進

【実施内容・実績】

ケース会議に高齢者担当部課と障がい者担当課が参加し、介護や障がいといった枠組みにとらわれず課題解決に取り組んだ。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

共生型サービスの体制が確立されていないため、多様化・複雑化してきている福祉ニーズへの臨機応変な対応や、地域の実情に応じたサービス提供体制を整備していくことが課題である。

基本目標Ⅲ 高齢者福祉の充実

(1) 高齢者の在宅生活を支える事業

① 高齢者生きがい活動支援通所事業

■ 高齢者生きがい活動支援通所事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
登録者数	0人	3人	0人	4人
利用実績（延べ回数）	0回	15回	0回	20回

【実施内容・実績】

在宅で生活する介護保険対象外の高齢者に対し、西郷村デイサービスセンター「ふれあいの家」「やすらぎの家」にて通所各種サービス（入浴、食事、生活指導、健康チェック等）の提供を行っている。高齢者の交流と仲間づくり、健康づくり、介護予防、閉じこもり解消等の支援につながっている。

※現在登録者は0名である。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

本事業は、介護予防や閉じこもり防止、社会的孤立の解消に向けた重要な受け皿としての機能を有しているが、R7年度の現状においては登録者・利用実績ともに「0」となっている。

② 訪問理美容サービス事業

■ 訪問理美容サービス事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
申請者数	11人	12人	10人	13人
助成券発行枚数	39枚	42枚	39枚	44枚
事業利用延べ回数	27回	24回	29回	26回

【実施内容・実績】

理・美容院に出向くことが困難な65歳以上の在宅高齢者や、要介護4以上の認定を受けた方を対象に、訪問による理美容サービスの出張費用を助成しており、令和7年度は申請者数、助成券発行枚数については目標値をわずかに下回ったが、事業利用延べ回数の増加が見られた。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

利用者数が減少傾向にあるが、事業利用延べ回数については増加しており、一人当たりの利用率が上昇していると考えられる。

今後もサービスが必要な寝たきり等の方がサービスを受けられるよう、村広報での周知に加えてトータルサポートセンター等による訪問時に、本事業について周知を行っていく。

③デマンド交通

■ デマンド交通

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
65歳以上事業登録者	599人	700人	752人	750人

【実施内容・実績】

住民の移動制約者の通院、買い物等の移動支援を目的とし下記のとおり事業を実施した。

○内容

交通空白地域における村民の交通手段として、予約型乗合交通を運行する
道路運送法第4条許可による、乗合公共交通として事業実施する。

交通事業者に運行費及び事務相当額を補助し、住民の足を確保する。

- ・車両台数: 北部最大5台、中南部最大10台。
- ・運行区域: 西郷村一円および白河市の一部。
- ・運行時間: 12/29～1/3を除く全日 7:00-17:30
- ・運賃: ①高校生以上70歳未満の村民
村内の移動: 400円、白河市を含む移動: 600円
②小中学生・70歳以上・障がい者・免許返納した村民
村内の移動: 200円、白河市を含む移動: 300円
③村民以外 1,000円
④未就学児(村民・村民以外共通)
無料(ただし、保護者(有料)の同乗を要す)

○実績

利用登録者数: 752人(前年度 779人)※年度末現在

予約総数: 17,973件(内キャンセル 847件)(前年度 15,009件(内、キャンセル 980件))

1台あたり乗車人数: 平均 1.45人(前年度 1.37人)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

○現状・課題

公共交通サービスにおいて、路線バスと併せて、本村の主軸を担うデマンド交通については、今後も郊外部、特に山間部の過疎地域の輸送手段として重要な役割を担っていくことが想定される一方で、現在の運行体制では、予約受付時間が限られているほか、前日までの予約が必須なことから、突発的な移動に対応できず、日常生活での移動手段としては利便性に課題がある。

○対応策

AI 予約システム等の導入による終日予約受付及び即日予約の実施、定期券やフリーパスといった利用支援策など、柔軟な対応が必要である。

④はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業

■ はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
申請者数	212人	210人	194人	220人
発行枚数	2,319枚	2,200枚	2,031枚	2,250枚
延べ利用枚数	794枚	1,000枚	711枚	1,050枚

【実施内容・実績】

70 歳以上、または 65 歳以上で障害者手帳1・2級を持っている高齢者が、はり・きゅう・マッサージ等の施術を受ける場合、その費用の一部を助成している。

令和7年度も継続して村広報誌や InfoCanal に加え、トータルサポートセンターの訪問員等を通じて事業の周知を図ったが、申請者数及び延べ利用枚数の減少に伴い、申請者数に対する利用件数が減少している。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和 7 年度にサービスを利用した利用者数は 126 人であり、令和 6 年と同値だった。

令和 7 年度中に村が指定する施術所のうち 1 件が事業廃止となっており、当該施術所の近隣に住む利用者から、他の施術所について問い合わせがあった。

今後は西郷村内が指定していないはり、きゅう、マッサージ等を実施する施術所の取扱いについても検討していく必要がある。

⑤軽度生活助事業

■ 軽度生活援助事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
利用者数	4人	7人	3人	8人
延べ利用回数	56回	70回	61回	75回

【実施内容・実績】

65 歳以上で介護保険対象外の方に、訪問介護員を派遣し家事援助サービス(室内の整理・整頓、外出時の援助、食事・食材の確保、寝具類等の日干し、その他軽微な援助)を提供している。

なお、利用者に求められているサービスとしては、室内の整理・整頓や、食事・食材の確保が主な実績となる。

(指定事業所数:1事業所)

【自己評価（現状、課題と対応策）】

在宅高齢者の自立生活をサポートし、介護予防を図る上でも継続事業実施が必要となる。

利用者数が増えた場合、現在の指定事業所のみでは事業対応できなくなるのが課題として挙げられる。

必要とする方がサービスに繋がるよう、トータルサポート事業と連携し、広報・周知に努め高齢者の日常生活の支援を行っていく。また、新たな指定事業所での事業実施も検討していく。

⑥寝具洗濯乾燥消毒サービス事業

■ 寝具洗濯乾燥消毒サービス事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
事業延べ利用人数	247人	195人	245人	200人
寝具類利用枚数	623枚	510枚	618枚	520枚

【実施内容・実績】

65 歳以上の高齢者のみ世帯や要介護 3 以上の認定を受けた方、40 歳以上の寝たきり等の重度身体障がい者の方に対して、年に 2 回寝具の丸洗い・乾燥を行っている。

令和 6 年度より対象となる寝具のサイズの拡大をおこなっており、利用人数が大きく増加した。7 年度についてもおおよそ 6 年度と同等の利用人数及び利用枚数である。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

民生委員・ケアマネジャー・トータルサポート等との連携もあり、利用者の拡大につながっている。

本事業は料金の1割のみの負担で寝具類のクリーニングができるものとなっており、多くの利用者から好評の声をいただいている。現在、物価高騰の影響によりクリーニング料金も高騰していることから、高齢者の経済面での負担軽減に繋がっている。

一方で課題として、枚数の制限がわかりにくい部分や回収・納品の具体的な時間が事前にお知らせできない部分について、利用者から声が挙がるがあった。

⑦高齢者にやさしい住まいづくり助成事業

■ 高齢者にやさしい住まいづくり助成事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
住宅改修件数	23件	40件	29件	40件
住宅改修費（千円）	2,021	4,000	2,296	4,000

【実施内容・実績】

村内に在住の非課税世帯かつ65歳以上の住民を対象に、手摺り取付けや段差解消等を実施するにあたっての助成を行うことで、高齢者が住宅で安全かつ快適に過ごして頂けるようにする。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

実績額は目標値に届いていないが、件数は増加している。自立した生活の補助及び要介護（要支援）への進行の予防をするために、継続して実施が必要である。

⑧冷房器具購入費助成事業

■ 冷房器具購入費助成事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
事業利用者数	3人	7人	3人	8人

【実施内容・実績】

65歳以上の高齢者世帯を対象に、購入費用の一部を助成し高齢者の熱中症による事故を未然に防ぎ、生活の質の向上を図っている。

令和7年度の利用者数は3人であり、伸び悩んでいる。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

相談はあるものの、要件の一部に該当しない方が多く、利用につながっていない。特に「住民税非課税世帯であること」や「高齢者のみの世帯であること」に該当しない方が多く見られる。

(2) 高齢者虐待等防止と権利擁護

①虐待防止への取組の推進

■ 虐待防止への取組の推進

	R6	R7	R8
	実績値	実績値	目標値
高齢者虐待への対応	12	6	—

【実施内容・実績】

高齢者の人権や財産等の権利を守る「権利擁護」について、重要なテーマとなっている。

高齢者虐待への対応については虐待防止の啓発及び予防を行うとともに、事例を把握した場合には、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づき適切な対応に努めている。

令和7年度では、やむをえない理由による保護を実施した高齢者が1名おり、身の安全につなげることができた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

個別案件については村と包括支援センターが連携し対応している。高齢者人口の増加に伴い、今後も高齢者虐待のリスクが増加することが予測されるため、通報があった際の状況確認を迅速に行うことや、相談者と不定期に連絡や訪問を行うなど、見守り体制の構築も必要である。

また、緊急保護が必要となった際に、協定を結んでいる事業所が受け入れできない状況も想定されるため、村内の事業所と協議し、協定事業所の拡大を行っていく。

今後も、引き続き関係機関との連携強化に努めると共に、村の虐待防止対応マニュアルの内容の精査も課題として挙げられる。

②高齢者への虐待対応体制の強化

■ 高齢者への虐待対応体制の強化

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
虐待防止の啓発活動	1回	2回	2回	2回

【実施内容・実績】

高齢者虐待への対応には、虐待防止の啓発及び予防が必要である。アルツハイマー月間の啓発活動に合わせて、高齢者虐待の啓発活動を実施し、住民の意識の向上に努めた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者虐待の防止・早期発見のためには、これまで以上に住民の方が高齢者虐待について理解していただく体制の整備や、相談窓口の周知が必要となるため、継続して啓発に力を入れていく必要がある。

地域包括支援センターで作成したパンフレットと村ホームページに記事を掲載したため、情報を広げていきたい。

③権利擁護事業

■ 権利擁護事業

	R6	R7	R8
	実績値	実績値	目標値
困難事例への対応	35件	24件	—
その他権利擁護相談件数	2件	2件	—

【実施内容・実績】

高齢者が地域で安心して生活するために、本人の意思によらない契約や詐欺、高齢者虐待の被害に遭わないような権利擁護や早期発見・早期対応の仕組みづくりに努めている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

高齢化や核家族化の進展により、高齢者の困難事例が増加している状況である。地域住民や、民生児童委員、ケアマネジャー等の支援だけでは十分に問題解決ができない、適切なサービスにつながる方法がみつからない等、困難な状況にある高齢者が、地域において安心して尊厳のある生活ができるよう、専門的・継続的な視点から支援を行う必要がある。

④成年後見制度利用支援事業

■ 成年後見制度利用支援事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
成年後見制度の相談件数	32件	35件	28件	40件
成年後見村長申立ての件数	1件	—	0件	—
報酬助成件数	2件	1件	1件	1件

【実施内容・実績】

高齢者の実態把握や総合相談の中で、認知症による判断能力の低下等、特に権利擁護の観点から支援が必要と判断した場合に、地域において尊厳のある生活を維持していけるよう成年後見制度の利用を図っている。制度の普及啓発をするとともに、利用が必要な方で申立てが困難な方に対し、村長申立てや後見人等への報酬助成をし、福祉の向上に努めることができた。

また、令和7年度は終活と結び付けた成年後見制度講演会を実施し、想定よりも多くの参加者が来場した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

成年後見制度の利用促進や適切な対応のために、相談窓口の周知や制度の理解促進、職員のスキルアップが必要となる。

また、講演会について、住民の方が身近に感じるテーマと制度を結びつけるような形式で実施することで、成年後見制度を身近なものとして感じさせるようなものを実施していきたい。

⑤老人保護措置事業

【実施内容・実績】

保護措置者 令和6年度:1件

協定施設 村内4事業所

(福島県やまぶき荘、福島県さつき荘、リアンヴェール西郷、星の郷みらいグループホーム)

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和7年度では、村・地域包括支援センター・介護事業所が連携を取り合い、高齢者1名の保護を迅速に行うことができた。やむをえない事由に対する措置の協定施設を4事業所あることで、複数の施設を活用しながら保護することができた。

(3) 高齢者の孤立防止と見守り体制の強化

①地域見守り体制ネットワーク事業

■ 地域見守り体制ネットワーク事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
地域見守り体制ネットワーク事業 協力事業者数	10社	30社	15社	40社

【実施内容・実績】

村、包括支援センター、村内の事業所、団体等が連携協定を結び、地域住民をさりげなく見守り、住民の異変を早期発見・対応できる体制づくりを行う事業です。

※令和7年度 協定締結事業所 15 社

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今後も、啓発活動を続け、事業の趣旨に賛同してくれる事業者と協定の輪を広げ、安心して暮らせる村づくりを目指していく。また、協定締結をゴールではなく、現在の協定事業者がどのような取り組みを行い、どのような支援に関わったのか、情報交換できる機会を創出する必要がある。

②見守り安心ネットワーク事業

■ 見守り安心ネットワーク事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
登録世帯数	150世帯	185世帯	144世帯	190世帯

【実施内容・実績】

高齢者等に対し見守りに必要な機器を貸与し、24 時間体制で急病、火災、事故等の緊急時に迅速かつ適切な対応を行うとともに、村、地域包括支援センター、民生委員その他の協力機関が連携して高齢者等の見守り等を実施する。

令和7年度は 144 世帯の登録があり、225 件の通報があった。うち緊急的な通報や相談は 11 件あり、救急車の要請が 5 回、警備員の派遣が 6 回あった。

また長期間事業を休止している方については状況確認を行っており、再開の目途が立たない方については事業廃止の案内を行った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

西郷村では現在アイネットと ALSOK の 2 社に本事業を委託しているが、ALSOK の利用者のみ増加しており、アイネットの利用者は減少している。

事業全体では 6 世帯分の減少となっているため、事業の周知のため、村広報への掲載の他にトータルサポートセンターの訪問員やケアマネジャー等を通じた事業の説明を行い、見守りが必要な高齢者等が安心して生活できる環境を作っていく必要がある。

③さわやか訪問収集事業

■ さわやか訪問収集事業

	R6	R7		R8
	目標値	目標値	実績値	目標値
訪問実績（延べ件数）	2,476件	2,780件	2,188件	2,910件
登録世帯数	60世帯	65世帯	56世帯	70世帯

【実施内容・実績】

この事業は老衰、身体の障害、疾病等の理由により家庭から排出されるごみを所定のごみ収集所まで搬出することが困難な高齢者等に対し、安否を確認するために継続的に訪問してごみを訪問収集するサービスを提供することにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進する。

令和7年度は新規に11世帯が事業の対象となったが、施設への入所等の理由で15世帯が事業廃止となった他、事業を休止している世帯が7件あり、休止者については現況の確認を実施して、再開の予定等について把握した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

令和7年度は訪問実績及び登録件数は前年度を下回り、曜日別では火曜日の利用者が増加、水曜日の利用者が減少している状態であり、新規申請を受け付ける際には注意が必要になっている。

村広報誌やトータルサポートセンターの訪問等で事業の周知を図っており、申請件数は前年度と大きく変わっていないが、施設入所等の理由で事業を廃止する割合が大きくなっている。

今後は利用者の訪問曜日について実施事業者と調整を行い、効率よく事業を実施できるように調整していく必要がある。

④介護予防把握事業（再掲）

⑤住民主体の通いの場の普及・啓発（再掲）

⑥災害時における体制整備

■ 災害時における体制整備

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
避難行動要支援者数	1,315人	1,300人	1,183人	1,300人

【実施内容・実績】

避難行動要支援者数は、地域防災計画の対象者要件の見直しを受けて人数が減少した。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

引き続き避難行動要支援者に対する個別避難計画策定に努めたい。

基本目標Ⅳ 利用者本位の介護保険事業の推進

(1) 介護保険サービスの充実

①介護保険サービス基盤整備

■ 介護保険サービス基盤整備

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
地域密着型特別養護老人ホームの施設数	0か所	0か所	0か所	1か所
小規模多機能型居宅介護事業所の施設数	1か所	1か所	1か所	2か所
認知症グループホームの施設数	2か所	2か所	2か所	3か所

【実施内容・実績】

地域包括ケアシステムを深化・推進し、介護需要急増への対応を図るため、福祉タウン構想の実現に向け、施設整備計画を具体化するため協議・調整を図っている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今後の介護需要の急増と地域包括ケアシステムの深化を見据え、村の「福祉タウン構想」の実現に向けた中核となる介護施設の整備に向け、関係機関等との協議・調整を進めてきた。しかしながら、昨今の急激な物価高騰(建築資材価格等の高騰)に伴う事業環境の悪化や、整備に向けた諸条件の協議・調整に想定以上の時間を要していることから、現行計画期間内(令和8年度まで)での目標達成は困難な状況にある。そのため、対象施設の整備については、次期介護保険事業計画期間へ見直す(先送りする)方針とした。

②介護保険サービス事業者への支援及び指導・助言

■ 介護保険サービス事業者への支援及び指導・助言

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
居宅介護支援事業所への運営指導	1件	1件	1件	1件
地域密着型サービス運営委員会の開催	1回	1回	1回	1回
地域密着型サービス事業所への運営指導	1件	1件	3件	1件

【実施内容・実績】

西郷村では居宅介護支援事業所、及び地域密着型サービス事業所の運営指導を実施しており、事業所に対し、介護保険制度に基づく連絡事項の伝達、各文書の確認、介護保険制度に関する説明等を行った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和7年度は居宅介護支援事業所1件、地域密着型サービス事業所3件の運営指導を実施した。今後も、西郷村の住民が安心してサービスを受けられるよう、各事業者と連携していく必要がある。

③介護給付適正化

■ 介護給付適正化

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
例外給付に係るケアプランの点検率	100%	100%	100%	100%
認定調査結果の点検率	100%	100%	100%	100%

【実施内容・実績】

介護(予防)給付が利用者様にとって、真に必要な物となるサービスを提供する事で持続可能な介護保険制度を目指す。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今年度も認定調査及び例外給付に関わるケアプランの点検率は100%を達成。来年度も継続して実施していく。

④介護人材の確保・育成

【実施内容・実績】

介護予防サポーター養成講座は新規参加者を対象とした初級編と過去に参加された方を対象にした上級編に分けて講座を実施し、介護人材の育成に努めた。

また、令和4年度から西白河郡の5市町村が共同でしらかわ介護福祉専門学校を支援し介護人材の育成に努めている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和6年度から引き続き、地域に介護予防サポーターと村保健師を派遣し、参加者の健康・介護予防に対する意識向上を図る取り組みをしている。今後も各地域で自主活動が行えるよう介護予防サポーター養成講座を開催し、人材育成に努めていく。

また、5市町村共同で専門学校を支援し人材を育成しても、卒業生が村内や圏域内の介護事業所に就職し、その後も長く定着して働いてくれるかどうかは課題である。

⑤ケアマネジメントの質の向上

■ ケアマネジメントの質の向上

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
ケアプラン点検の実施	1事業所	1事業所	1事業所	1事業所

【実施内容・実績】

介護支援専門員が作成したケアプランが、実際にサービスを受けている利用者様にとって適切に機能しているのかについて点検する。併せて、介護支援専門員のケアマネジメントスキルの向上も目指す。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今年度、計画目標通り1事業所に対するケアプラン点検を実施した。これにより、利用者の状態に応じた適切なサービスが位置付けられているか(自立支援に資する内容となっているか)の確認と、介護支援専門員に対する直接的な指導・助言を行うことができ、ケアマネジメントスキルの向上につながった。

(2) 介護者への支援

①寝たきり等高齢者紙おむつ支給事業

■ 寝たきり等高齢者紙おむつ支給事業

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
申請者数	474人	415人	463人	420人
助成券発行枚数	5,221枚	4,560枚	5,317枚	4,570枚
紙おむつ給付券延べ利用枚数	3,125枚	2,750枚	3,197枚	2,800枚

【実施内容・実績】

在宅で介護認定を受けている高齢者の方に対して、利用類型4分類(最重度、重度、中度、軽度)に応じ給付券を支給している。村 HP や広報誌で周知を行い、利用者は年々増加傾向にある。

最重度:5,800 円 重度:4,200 円 中度:2,500 円 軽度:1,000 円 ※(1 割自己負担)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

実績内容について、年々増加傾向にあり今年度も目標を大きく上回った。

令和8年度から村民の利用方法の拡充としてゴミ袋交換券の配布も開始し、指定ゴミ袋と交換できる事業を開始。

今後もケアマネと連携し、事業対象者への周知及び認定区分の変更に伴う利用類型の変更についての周知を漏れや遅れの無いよう、対象者が適切に事業を受けられるように実施していく。

②要介護等高齢者介護者激励金

■ 要介護等高齢者介護者激励金

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
激励金申請件数	73件	80件	65件	80件
激励金交付件数	70件	70件	64件	70件

【実施内容・実績】

要介護3以上の方を在宅で6か月以上介護している介護者に激励金を支給し介護者の労をねぎらうとともに経済的負担を軽減する事業。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

介護度の高い要介護者を自宅で介護することの負担は大きく、こうした事業により介護者を激励することは、介護者の精神的負担の軽減にもつながると考えられる。

また、介護者のニーズを鑑みつつ、今後も事業を継続していく必要があると考えられる。

③家族介護慰労金

【実施内容・実績】

要介護4以上の住民税非課税世帯の在宅高齢者等で、過去1年における介護保険によるサービスを受けなかった方を介護している家族へ家族介護慰労金を支給する。

期間中の申請件数:0 件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和7年度は要件を満たす対象者は居なかった。

要介護者を在宅で介護する家族の負担は大きいことが考えられるため、介護者の労をねぎらうとともに経済的負担を軽減し、高齢者福祉の増進を図る必要があるが、介護保険制度の地域支援事業であり、任意事業に位置付けられているため受給条件が厳しいことが課題となる。

要介護等高齢者介護者激励金支給事業と連携し、介護者の労をねぎらうとともに経済的な負担の軽減と要介護高齢者等の在宅生活の継続、向上を図り事業内容の周知も行っていく。

④ヤングケアラー、ビジネスケアラーへの支援

【実施内容・実績】

乳幼児健診や学校・幼稚園等を対象とした巡回訪問等を通じ、村内在住の子どもとその家庭の状況の把握に努めています。福祉・教育・介護・医療・地域と連携しながら、子どもが子どもらしくいられる社会を目指し、個々に合ったより良い支援を行っていきます。

また、高齢化の進行に伴い、日本全体でビジネスケアラー（仕事をしながら家族等の介護に従事する者）の数が増加しています。ケアラーが介護を担う前とほぼ変わらない働き方を継続でき、負担軽減を図れるよう、子どもとその世帯支援を行っていきます。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

自分が「ヤングケアラー」と自覚していない場合が多く、支援につながりにくいため、巡回訪問等を通じ、村内在住の子どもとその家庭の状況の把握に努めていく。

（３）非常時における介護事業所等の業務継続への支援

①自然災害への対策支援

■ 自然災害への対策支援

	R6	R7		R8
	実績値	目標値	実績値	目標値
関係機関との連携会議	2回	1回	1回	1回

【実施内容・実績】

県南保健福祉事務所との会議に出席した。また、県災害対策課との情報交換を行い、連携を図っている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

県等の会議や研修会等に積極的に参加し、関係機関との顔の見える関係を築く必要がある。

②感染症への対策支援

【実施内容・実績】

介護保険施設や事業所等との連携に努め、感染拡大防止策の情報提供や啓発を実施し、感染症に対する備えを進めている。また、感染症拡大防止のための衛生・防護用品の備蓄の推奨と体制整備の方法について介護保険事業所と情報共有を行い、村でも緊急時に備えて備蓄の確保に努める。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

感染症が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築することは重要であり、指定基準により、全ての介護サービス事業者を対象に、業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施等が義務付けられているため、村内の介護サービス事業者に対して必要な助言及び適切な援助を行っていく。